

洗堰上流の瀬田川におけるチャネルキャットフィッシュの延縄釣獲率

三枝 仁・田口貴史・酒井明久・臼杵崇広（水産課）

1. 目 的

洗堰上流側の瀬田川においてチャネルキャットフィッシュが生息していることが明らかとなったことから、当該水域での本種の生息動態を測る指標とするべく、延縄調査における釣獲率（針 100 本あたり捕獲数）を求め、過年度の結果と比較した。

2. 方 法

洗堰上流域（瀬田川洗堰より上流の瀬田川）において本年度に実施した延縄調査での使用針本数および本種の捕獲尾数から釣獲率を求めた。また、洗堰下流域（瀬田川洗堰より下流側の瀬田川）で操業された延縄漁業における釣獲率との比較を行った。

3. 結 果

本年度に実施した延縄調査は、2018 年 7 月 25 日から 2019 年 3 月 26 日までの間に 8 回実施していたが、5 回目の調査日が終了した 9 月 7 日以降翌年 3 月までの間に瀬田川洗堰の全開放流が複数回実施されていたため、本種

個体が調査水域から下流域への離脱ないしは下流域から新たに加入した可能性が考えられたため、6 回目以降にあたる 3 月実施分を除く 5 回目までの調査結果を用いて釣獲率を計算した。すなわち、瀬田川における 5 回の調査で延べ 1,500 本の釣り針を用いて 24 尾を捕獲できていたことから、当該調査における本種の釣獲率は 1.60 となった（表 1）。

一方、2013 年度から 2018 年度に実施した洗堰下流域での延縄漁業の漁獲日誌調査結果から、操業盛期にあたる 4 月から 9 月までのデータを用いて釣獲率を求めたところ、最も高い値が 2014 年度の 2.41、最低が 2016 年度の 0.28 であった（表 2）。

本調査で得られた洗堰上流域での釣獲率 1.60 は、本種が定着し多数生息しているとみられる洗堰下流域の釣獲率の範囲（0.28～2.41）に入っており、使用針本数にも大きな差が認められないことから、洗堰上流域において既に本種が相当数生息しているものと考えられた。

表1. 延縄調査における捕獲尾数と釣獲率

調査日	捕獲尾数	針本数	釣獲率
7月25日・26日	9	300	3.00
8月1日・2日	0	300	0.00
8月8日・9日	7	300	2.33
8月16日・17日	7	300	2.33
9月6日・7日	1	300	0.33
計	24	1,500	1.60

表2. 洗堰下流域（延縄漁業）における釣獲率

年度	のべ針数	捕獲数	釣獲率
2013	2,240	16	0.71
2014	1,410	34	2.41
2015	1,915	22	1.15
2016	1,780	5	0.28
2017	930	5	0.54
2018	775	12	1.55